

各施設における職業感染対策

【針刺し・切創・粘膜曝露】対策の実施状況について
アンケート結果

市立宇和島病院 ICT（感染管理部）

針刺し・切創・粘膜曝露対策 施設対応アンケート結果

宇和島医師会

67施設

クリニック54施設

診療所5施設

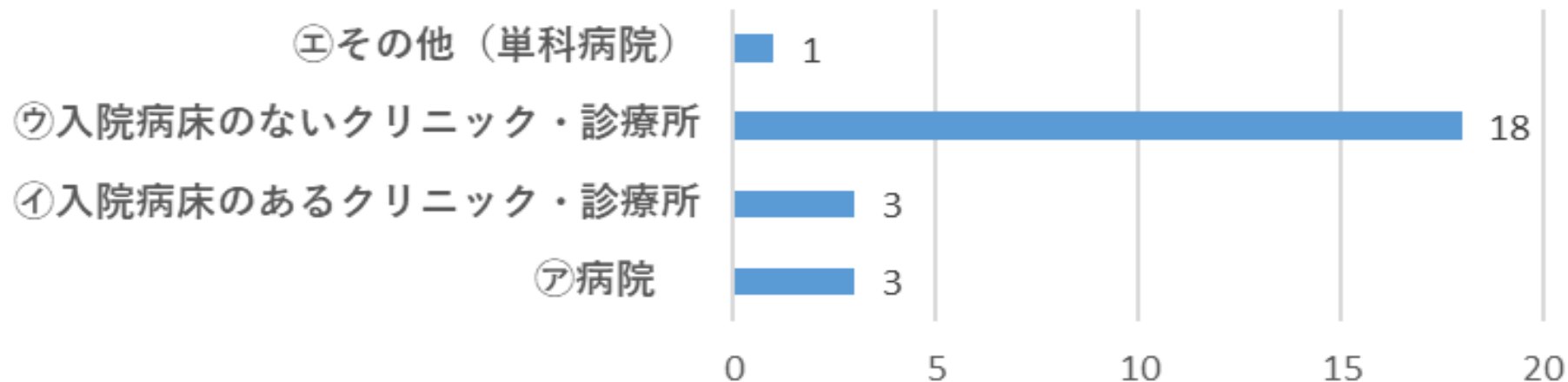
病院8施設

アンケート回収

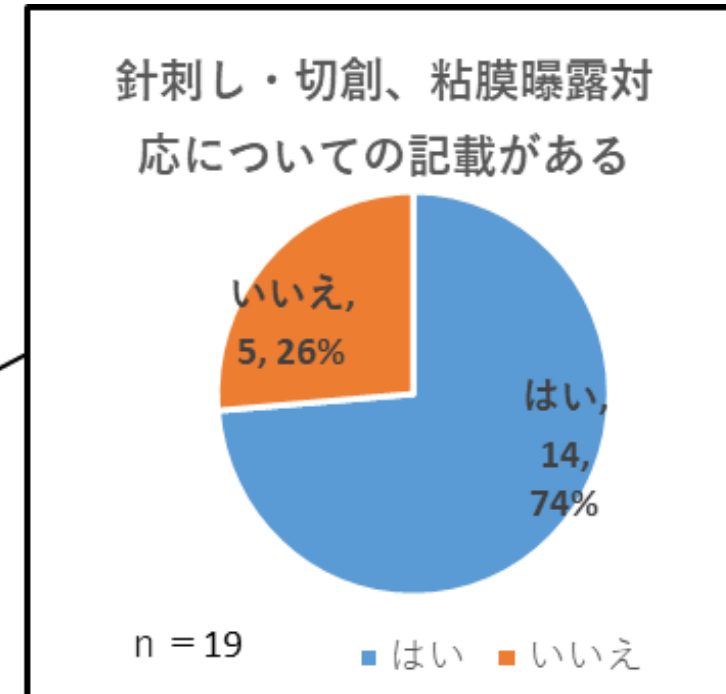
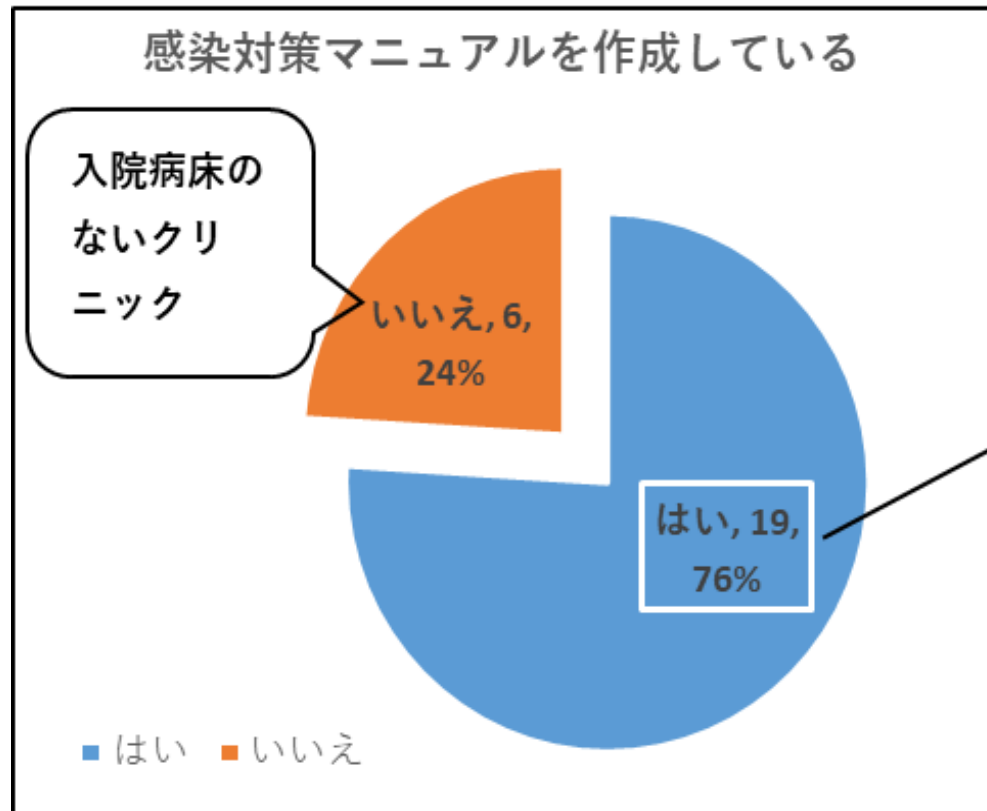
25施設 (回収率 37%)

アンケート協力施設の種類の種類

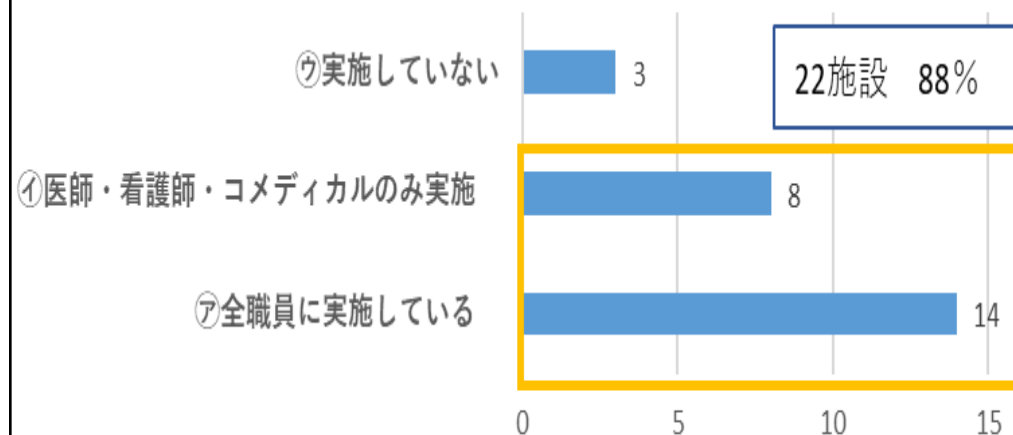
施設の種類の種類 n = 25



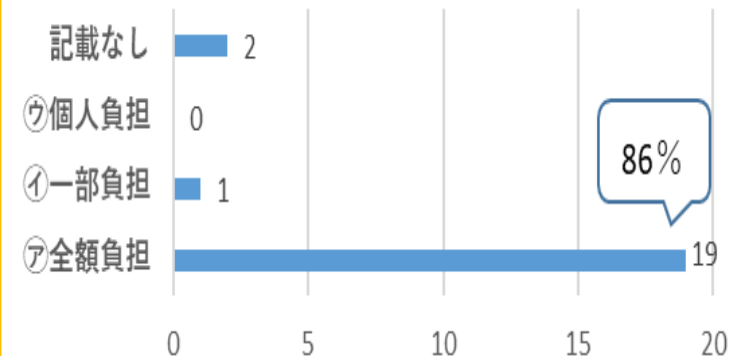
I 職業感染対策マニュアルに関して



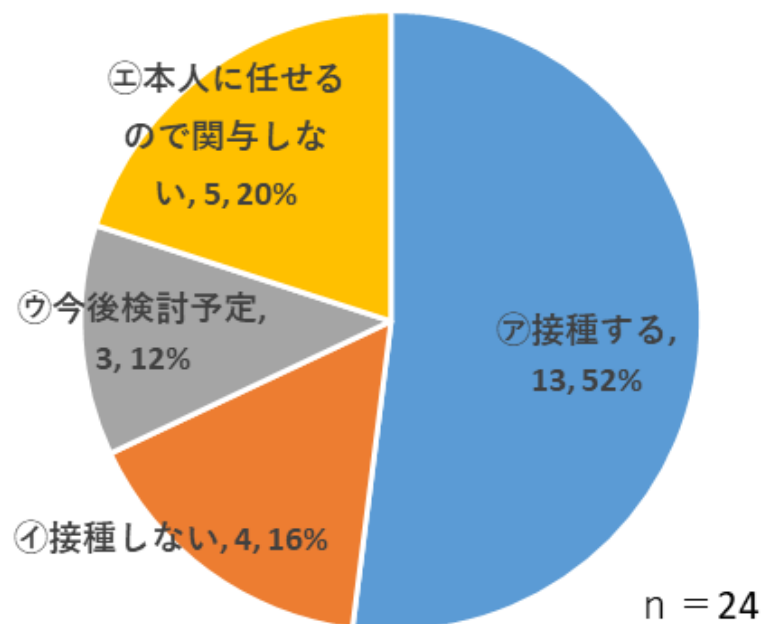
自施設の職員のHBs抗体の確認採血を実施していますか？



実施している場合の費用負担は？

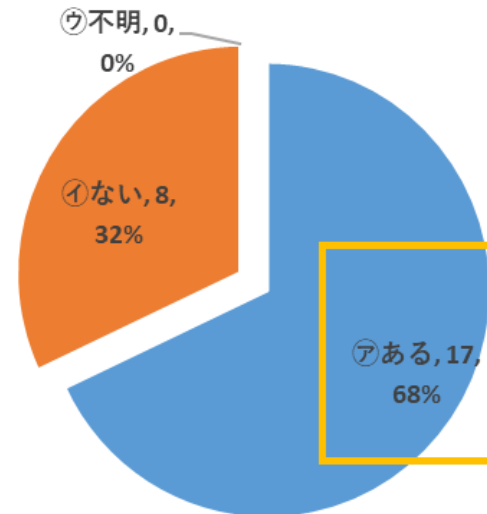


HBs抗体が陰性の場合、HBVワクチン接種はされますか？

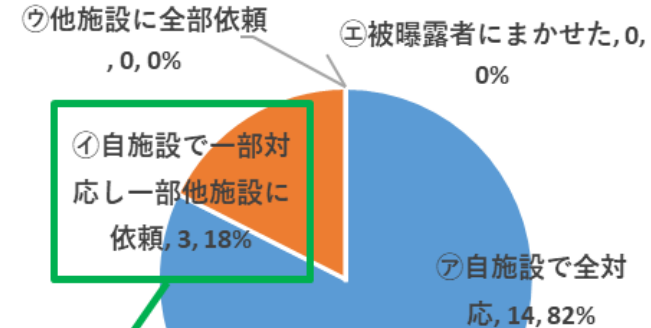


Ⅱ 針刺し・切創、粘膜曝露の事故について

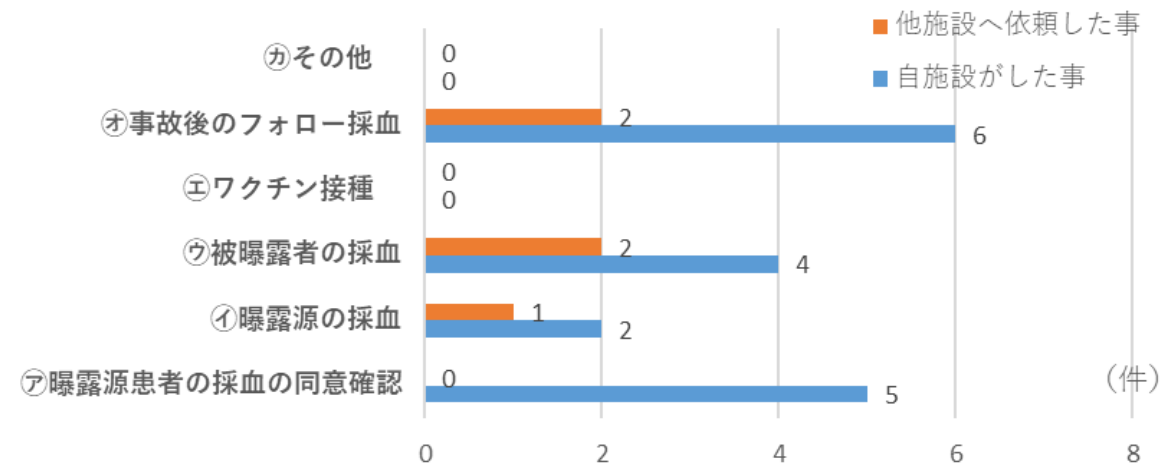
実際に事故が起こった経験は？



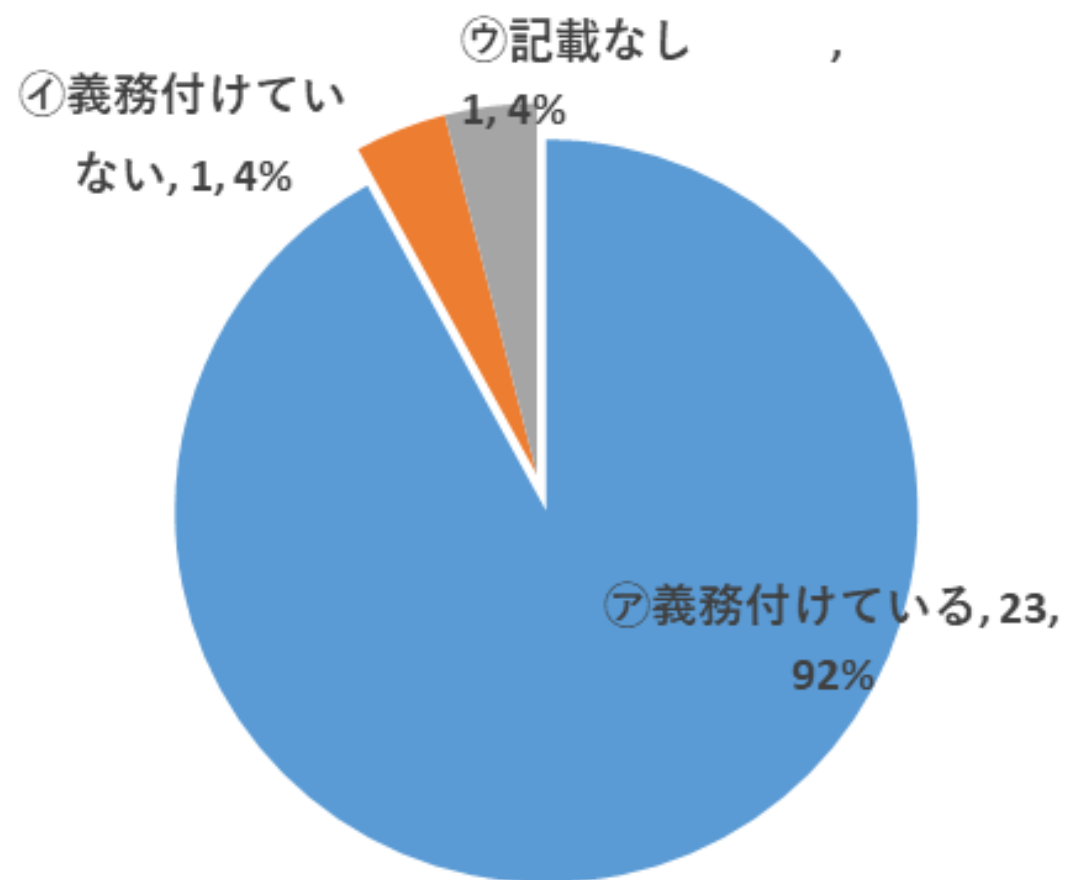
事故が起こった時の対応はどうされましたか



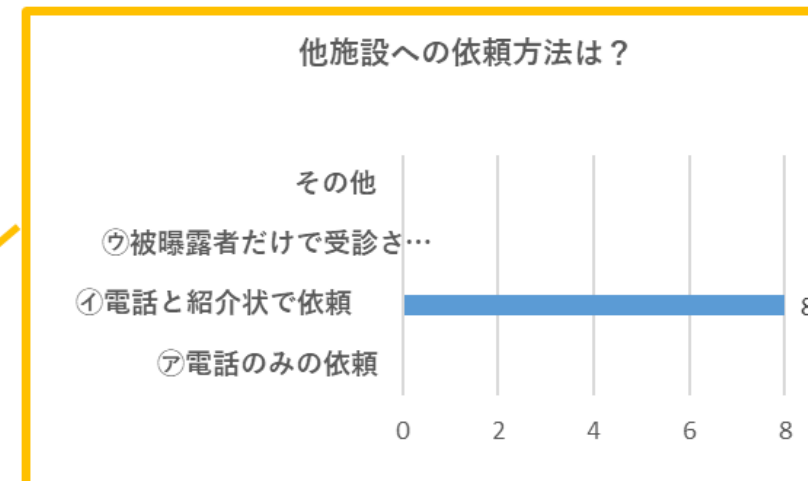
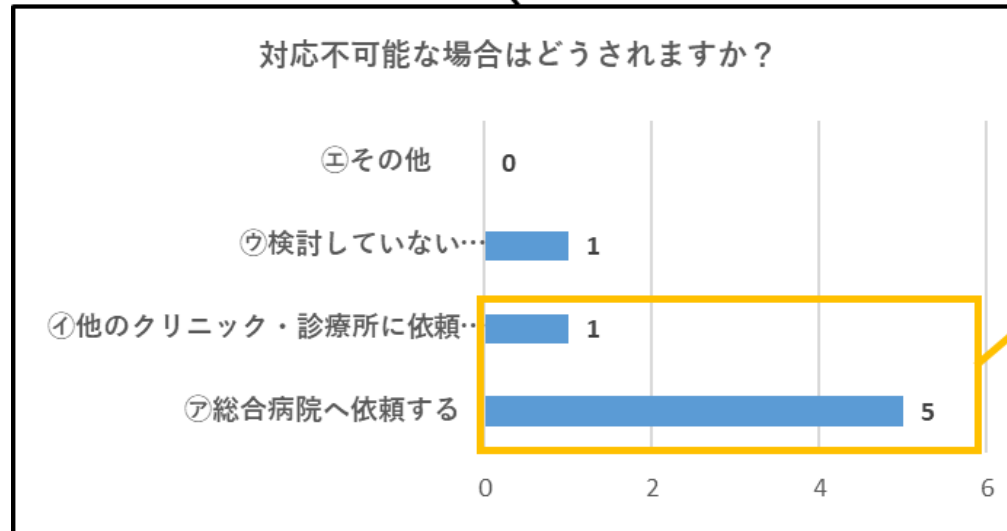
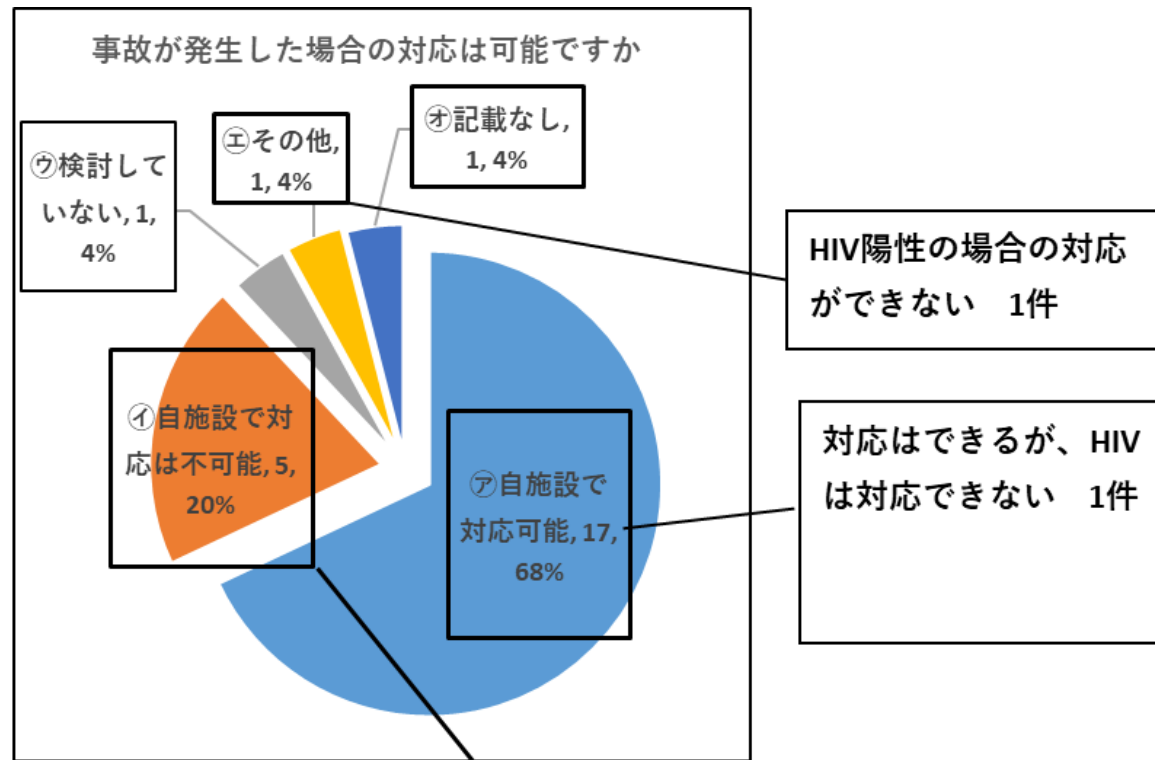
一部自施設対応：自施設で対応した事 他施設に依頼した事



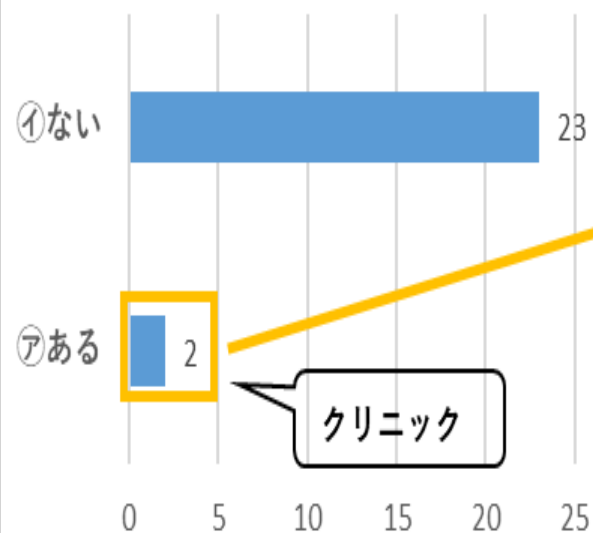
事故が起こった場合、職員には報告するよう義務付けていますか？



Ⅲ 事故発生後の対応について

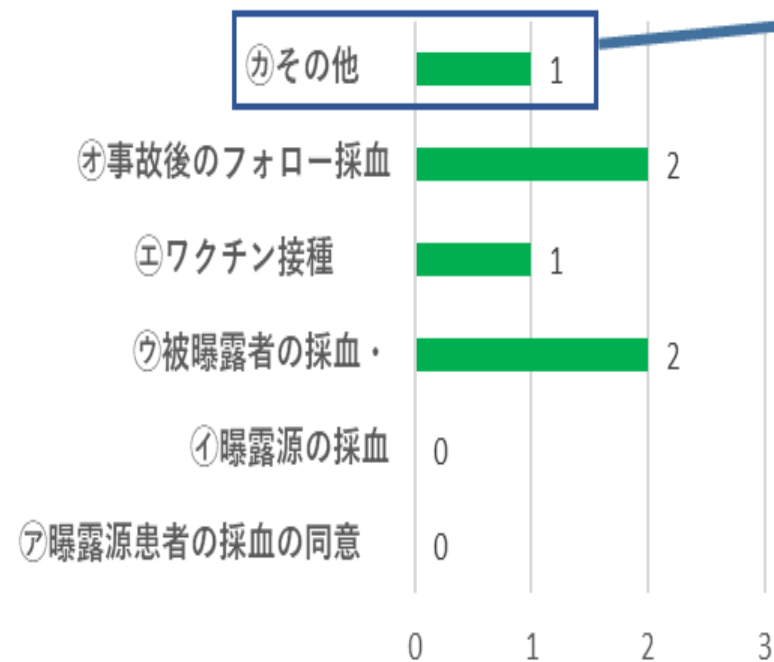


他施設から事故後の対応依頼を受けたことがあるか？



クリニック

依頼があった場合どのような対応をしたか？



対応マニュアル
の提供

課題

- ・針刺し・切創・粘膜曝露の事故を経験している部署は17施設(68%)あり、頻度としては高い。
- ・自施設で対応ができないと回答した施設においても、他施設へ相談依頼を行う場合においては、感染予防の対応がとれることがわかった。
- ・しかし対応を検討していない施設においては、職員は事故後に個人で受診するなどの対応が必要になってくるため、感染予防対策が遅れる可能性がある。
- ・そのため、事故後どういう対応が必要かについて情報を得ておくことは重要と考える。
- ・事故後フローチャートの作成を検討すること。
- ・他施設に依頼をかける場合は、曝露源の採血をどうするのか、(採決の同意、採血をどちらでするのか)双方の話し合いが必要。